

IV.部門の活動状況

2023年4月～2024年3月

医療安全管理室

課長 宮崎俊子

について協議しました。

是正処置が必要な事例において、処置が滞ることなく実施できるように、是正の進捗に合わせてヒヤリングを実施しました。

1. 任務、役割

(1) クオリティマネジメント部内に配置し、院内の医療の質と安全の向上を推進するため、専従の医療安全管理者を置き以下の業務を行います。

- ①医療事故報告書の集約・集計・分析を行い、院内に発信します。
- ②医療事故再発防止において、部門や委員会など横断的に関わり、対策実施と有効性の評価の支援を行います。
- ③前年度の医療安全対策の課題から、次年度の目標設定や具体的手立て、研修計画などを作成し、医療安全委員会や部門リスクマネージャー会議を通して、院内の活動に展開していきます。
- ④毎週実施する医療安全対策評価カンファレンスにて、医療事故や医療安全相談事例の共有や、対策・再発防止策の検討と評価を行います。
- ⑤地域の医療機関の医療安全管理者と連携し、相互の医療安全文化の醸成につなげます。

2. 体制 1 名 (2024年 3 月末日現在)

職種

薬剤師 1

3. 活動と実績等

年度初めに設定した目標計画に沿って、安全対策や職員教育を、医療安全委員会や部門リスクマネージャー会議を通して実施しました。

電子カルテの新規変更に合わせて、それまでのインシデント報告を別のシステムに変更することになり、入れ替えのための準備を進め、8月より新システムの運用を開始しました。

1年間に報告されたインシデント報告（ひやりはっと事故報告）は、1845件ありました。全ての報告書に対し修正処置が実施されその評価と承認が滞りなく行われるように、報告部門への声かけや援助を行いました。

日々のラウンドで事故発生部門への聞き取りや現場の確認、その後の対応などについて確認しました。

発生した医療事故の集約を行い、専任医療安全管理者事務局による検討や、医療安全対策評価カンファレンスや医療安全委員会へ情報を提供し、対策の必要性や内容

感染管理室

部責主任 吉田智恵子

1. 任務、役割

感染管理認定看護師の専従者を置き、院内感染防止対策組織の事務局として、院内の感染予防と感染防止対策の推進を援助します。

2. 体制 1 名 (2024年 3 月末日現在)

職種

看護師 1 名

3. 活動と実績等

- (1) 院内感染対策組織の一員として、委員会・チームの連携に努めました。
- (2) 医療関連感染サーベイランスの結果を感染対策委員会、ICT・AST で共有し、必要に応じて現場への介入を行いました。
- (3) 新型コロナウイルス感染症の流行状況に合わせ、院内の感染対策の検討、対策に必要な物品・環境の整備を行いました。
- (4) 衛生管理者と連携し、職業感染の予防・経過観察が必要な職員に対するフォローを行いました。
- (5) 院内で発生した、アウトブレイクに対し、感染対策委員会・ICT・AST・関係部門と連携し、早期収束に努めました。
- (6) 法人内・外における感染対策に関連する相談の対応、問題解決のための介入・支援を行いました。
- (7) 法人内で発生したアウトブレイクに介入し、現場の支援・教育を行いました。
- (8) 周辺の医療・介護施設や行政と連携し、地域の感染対策に努めました。

看護部

看護部長 小野寺由美子

2023年度の目標と活動報告

〇コロナ禍での“2病院化”に向けたステップ

5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法5類へ引き下げされましたが、当院においては引き続き感染対策を強化し、日常業務化した発熱外来の運用を定着させつつ急性期病院としての対応力を向上させることが求められました。虹の森を活用した発熱外来を中止した以降は、急患外来でトリアージをして患者受け入れを継続できるよう調整し対応しました。

5/15からはC5病棟を内科病棟として再開し、新型コロナウイルス感染症患者の入院は、各内科病棟で対応することを討議しながら合意形成しました。どの病棟も入院受け入れを断らず、看護の提供に努力しました

上記のような対応の中でも、8月のふれあい生協病院開院、埼玉協同病院のリニューアル移転への準備は待たなでした。埼玉協同病院はより急性期機能を強化し、リニューアルのステップでも診療体制、入院受け入れ体制の質を落とすことなく進めることが必要でした。昨年取り組んできたPNS体制の定着と診療科を超えた患者の受け入れを促進できる仕組みをベースに取り組みました。

8/11～13の連休中、多くの職員が出勤し開院にむけて準備に奮闘しました。同じタイミングでシステムの更新も行われ、電子カルテが使えない中、入院診療を継続しての引越でした。事前にリハーサルを繰り返し綿密な計画を立てたことにより、入院患者さんの移送は事故なくスムーズに行うことができました。



入院収益アップに向けたアクションプラン例

	入院収益アップに向けたアクション	11月目標値	
全病棟で	◎日勤終了時：夜間入院受け入れに向けて、スタッフステーションに近いベッドの調整をする！		
東棟 5 階	<ul style="list-style-type: none"> ・個室20床を使い切る意識をもつ ・受け入れの優先順位 ①在宅からの依頼 ②院内 ③転院 しかし、患者動向は流動的で埋められない場合もある、法人内診療所（川口、さいわい、浦和）にもこちらから打診する。 ・すぐに空床がない場合→予約入院は北2病棟で、緊急入院は埼玉協同病院一般で受け入れる 	新規入院数/日	0.9
		在院患者数/日	18.3
東棟 4 階	<ul style="list-style-type: none"> ・現在人員体制を鑑み、HCU8床＋一般42床程度を目安にベッド調整している、チーム体制の見直し等で現場のストレスは落ち着いてきている。 ・HCU稼働をあげることを優先→そのためにはHCUから出せる患者は東4の一般床だけでなく、他病棟への転科が選択肢になるとHCUの入院がよりスムーズになる ・OPE後の戻りとしてのHCU活用 	新規入院数/日	一般 3.2 HCU 1.2
		在院患者数/日	一般 41.7 HCU 6.0
東棟 3 階	<ul style="list-style-type: none"> ・C3病棟と比較すると、-8床 ・4床室×5室をどう使い切るかが鍵 →乳腺、ケモ、EMR、オペ前血糖コントロール ・眼科オペ患者→医師体制の変更に伴い件数が激減、今後は？ ・切迫早産等の入院が発生した時：予約入院の調整のタイミングを相談 	新規入院数/日	3
		在院患者数/日	23.3
東棟 2 階	<ul style="list-style-type: none"> ・週の中頃、水曜日・木曜日あたりで満床になる、週末にかけて10名以上の退院が発生する状況 手術のお断りをしている現状もあるため、THA・TKAのニーズはまだ潜在している。 ・学会等医師のスケジュールでベッドの稼働が低下し、週末にかなり空床が発生してしまうことがある。 →月単位で医師のスケジュールを把握し、共有する。 手のOPEなどの2泊 3日の短期入院を受け入れる調整ができると空床の有効活用ができる（日曜入院の分散にもつなげられ 	新規入院数/日	2.5
		在院患者数/日	47.5

○経営改善に向けた取り組み

～看護部全体でポリバレンタ機能を高める～

埼玉協同病院はかつて経験をしたことがないような赤字決算となりました。リニューアル費用の関係もあり、ある程度想定されたことではありましたが、入院収益の不足が顕著でした。前述の通り、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れは継続したため、そこに伴うクラスターの発生などで入院制限があったことも大きく影響しました。

入院患者数、とりわけ一般急性期の入院患者数が減少しました。管理会議や経営会議での検討をふまえて、1部署の問題でなく、看護部全体で当事者意識を持ち取り組むために、看護長会議等で経営状況をタイムリーに共有できるよう工夫しました。病棟看護長1人1人が自部署の病床活用について「入院収益アップに向けたアクションプラン」として目標を可視化し、病棟事務と共有しながら月毎に全体の進捗や次の課題について、外来、手術室、透析室の看護長とともに検討を行って、看護部全体で共通の目標に向かって動く力が生まれました。客観的指標の検討から日々共有、定期的に集団的に検討する事が意識付けとなり、看護長たちが主体的にマネジメン

トサイクルを動かしました。病床稼働率の上昇と空床の最小化をめざした看護部全体の共有により、部署間の連携が強化され、診療科以外の振り分け、スムーズかつ柔軟な受け入れ=ポリバレンタ機能が発揮されました。また、救急やがん診療分野に幅広く関わる外来においても診療科に固定しない看護師の育成、配置に向けてチャレンジしました。

新病棟への移転と同時に、HCUが4床から8床へと増床しました。職責者やスペシャリストがリーダーシップを発揮しながら、「重症者をみる看護の質」を作るために奮闘しました。人工呼吸器装着患者、重症透析患者、重症新型コロナウイルス感染症患者、ハイリスク術後患者などを多職種で連携しながら断らずに受け入れ続け、HCUの高い稼働率に貢献できました。HCU機能の維持向上の取り組みは今後の大きな柱になると思います。

○タスクシフト・タスクシェアの取り組みを広げる。

当院では、従来より、看護職員の負担軽減と処遇改善のために、看護職員の勤務状況を把握し、業務改善や、メディカルスタッフを含めた病院全体としての協力体制をつくり、看護職員が担っていた業務等を他職種との分担をすすめてきました。2023年度はふれあい生協病院の開院、埼玉協同病院の東棟移転に伴う業務変更等があり、多職種間のタスクシェアリングが重要になる時期でした。5月から、働きやすい職場委員会が開始され、多職種の業務内容の見直しと整備をすすめました。職員ニーズを把握し、安心して働き続けられる職場づくりの施策をタスクシェアリングの観点からすすめていきます。

連携できる職員づくりをめざし、現任教育のIPE（専門職連携教育）として7年ぶりに教育研修センター主催IPW研修を復活しました。副主任相当の職員18名が参加し埼玉県立大学の先生たちの協力を得て3カ月の活動に取り組みました。部署横断的な連携のファシリテータとして活躍してくれることを期待しています。

○新人、中途入職者を迎え入れる支援体制の進化 ～看護部全体で支援する意識と体制づくり～

病院のリニューアルを支えるのは職員の力です。

4月に32名の新人看護職員を迎えました。学生時代、コロナ禍の影響で実習に行く機会が極端に減っていた世代であることを考慮し、看護サポート研修・部門内研修を行うことで職場環境への順応・コミュニケーション能力強化をめざしました。また、シミュレーターの活用や、時期に応じたシナリオでのシミュレーション研修を取り入れ、現場での看護実践能力の強化に取り組みました。ICTを活用した教育も進化させつつ、実践力・思考力を高められる育成を心がけています。OJTの支援ツールとして、新人支援プログラムを活用し個別性のある育成を進めてきました。中途入職者については、入職時のオリエンテーションや定期的な振り返り、スキルトレーニングなど、標準的な仕組みが定着し不安や課題を表出しながら個人のペースに合わせたOJTが進められるようになってきました。そして、指導者層の教育プログラムを看護部のキャリア2講座に位置付け、より幅広い対象に学びながら役割発揮できるよう支援してきました。2023年度、新人看護職員の早期退職はゼロです。“やめない、やめさせない、育ち合う環境づくり”はリニューアル成功の鍵になります。今後もあきらめず挑戦し続ける課題です。



シミュレーション研修の一場面

外来看護科

看護長 武 智子

1. 任務、役割

2023年8月ふれあい生協病院の開院により外来看護科となりERを中心に整形外科・乳腺外科・精神科・血液内科・脳神経外科・内視鏡・放射線検査・自己血採血外来・外来化学療法室を担っています。

また、新型コロナウイルス感染症が5類となりましたが引き続き感染対策を行い、外来診療がスムーズにいくよう各診療科連携しています。

2. 体制 (2024年3月末日現在)

職種	人数	備考
看護師	39名	
認定看護師	3名	集中ケア救急看護 がん化学療法看護 緩和ケア
保健師	4名	
准看護師	2名	
看護助手	3名	内視鏡2名 整形1名

3. 活動と実績等

- ①救急受け入れ件数 3,758件 搬入率 42.6%となりました。前年度よりも多い台数の救急車を受け入れ、入院へつなげました。
- ②社会派ERの特徴を活か「気になる患者カンファレンス」を開始。外来看護師としての在宅支援について取り組みました。
- ③内視鏡やレントゲン関係の緊急検査に対応しています。また、化学療法・自己血・乳腺外来に対応出来るスタッフの育成も行いました。緊急検査に対応できる看護師の育成にも取り組みました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

- ①断らない救急として、搬入時よりコメディカルも介入することでスムーズな流れの構築をめざします。
- ②内視鏡やレントゲン関係に対応出来るスタッフの育成をを行い夜間に発生する緊急処置に対応出来る環境作りをしていきます。
- ③引き続き、型コロナ感染症を含め、感染対策を継続し患者対応を行っていきます。

C2病棟看護科

看護長 大森有紀

1. 任務、役割

脳血管疾患、運動器疾患、急性期治療後の廃用症候群の患者を中心に、回復期リハビリテーションを提供し、障害受容から地域社会復帰に向けた支援を行っています。

2. 体制 28名

職種	人数
医師	2名
保健師	2名
看護師	19名
介護福祉士	9名
事務総合職	1名

※上記以外：社会福祉士2名、薬剤師1名、管理栄養士1名、理学療法士13名、作業療法士10名、言語聴覚士6名(兼務)、歯科衛生士1名(兼務)

3. 概要、特徴、特色

回復期リハビリテーション病棟入院料3を算定しています。チーム医療の展開により、患者、家族が安心して住み慣れた環境に戻れるよう、退院支援を行い、在宅復帰率が高い実績があります。

(1) 実績

入院患者数	268人
退院転出数	282人
平均在院日数	60.8日
病床稼働率	87.6%
在宅復帰率	93.2%
重症患者回復率	74.9%
アウトカム評価(実績指数)	45.56

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

特記なし

5. 今後の展望・次年度に向けて

退院困難な方であっても後に生活に困らないよう、経済的支援と介護指導、家屋調査を行いました。障害の受容について学習し、精神的支援ができるように努めました。今年度は、多職種と患者がわかりやすい目標を共有

し、患者の意欲を高めていきます。また、アクティビティの時間を増やし、日常生活でのリハビリを充実させます。

C3病棟看護科

看護長 中島美貴子

1. 任務、役割

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症第5類に移行となったことを機に、一般病棟へ変換しました。20床の内科病棟として軽症、短期入院の患者を中心に受け入れを開始しました。

8月のふれあい生協病院の開院と院内引っ越しに伴い、病棟の機能は継続したままC3へ移動し、その際にスタッフ2名が北2病棟へ異動となりました。

C3への移動に伴い、内科病床15床へ変更し、小児科病棟も併設されました。

2. 体制 16名 (2024年3月現在)

職種	
保健師	3名
看護師	13名
看護助手	2-3名

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

一般病床へ変換後、内科患者の受け入れを開始しました。当初予定していた軽症～中等症患者だけでなく、全介助や認知症、退院調整を必要とする患者も絶えず受け入れました。

引っ越し後は、元々のC3が受けていた女性のEMRを継続して受け入れました。

また、他病棟入院予定の患者や転科を受け入れることで、ベッド調整の協力もしていきました。

EUS、BF、シャント造設やPTAの入院、CAGの対応も経験者からの説明や関連病棟から資料を集め助言を受け、対応しました。また、COVID-19を含めた感染症患者、NHF使用患者、終末期で看取り方向の患者、など幅広い患者を受け入れました。

小児科の病床を確保する為に、EMR入院や、耳鼻科術後の患者を受け入れるなど協力してベッド調整をしていきました。院内でCOVID-19感染が拡大する中で、当病棟はCOVID-19即応病床時代の経験を活かし、適切な感染対策の元で、新たな感染者が出ることはありませんでした。

(2) 実績

①2022年1月～2022年12月

新入院患者数	496人
入院延べ人数	4637人
平均在院日数	9.6人
平均占床率	34.79人

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

埼玉民医連 看護学会

一般病床変換への取り組み～コロナ禍前に戻る為に～

5. 今後の展望・次年度に向けて

- ①整形外科患者を受け入れる環境とスタッフ育成を進めていきます。
- ②各部門で協力し合いベッド調整することで緊急入院の受け入れ対応が出来るよう取り組みます。
- ③スタッフが各委員会、係を含めた役割発揮が出来るよう取り組んでいきます。
- ④患者の疾患、状態に応じて必要な観察、ケアが実践出来るよう学び会える環境を作っていきます。
- ⑤働く職員の精神的ストレスを表出し、感染症と精神的負担に関する正しい知識をもって仕事を続けられるようにします。

C3病棟看護科(小児科)

看護長 中島美貴子

1. 任務、役割

小児科は、外来と病棟を担当していましたが、8月のふれあい生協病院の開院に伴い、外来部門は移動しました。病棟は旧C5の内科病棟との併設運用になりました。

小児科は新生児から中学3年生までの小児内科疾患の患者様を中心に医療の提供を行っています。急性期疾患の他、食物経口負荷試験などの検査入院も行っています。また、小児の整形外科や耳鼻科、消化器外科（虫垂炎、鼠径ヘルニア）の手術患者様の受け入れや、成人のSAS入院、EMRなどの検査入院、耳鼻科、眼科、術前の血糖コントロール目的での受け入れも継続しています。

地域に選ばれる小児科を目指し、妊娠期から継続した子育て支援が出来るように日々努めています。

2. 体制 5名（内科病棟スタッフと業務共用）

職種	
看護師	4名
助産師	1名（保健師有資格）
病棟保育士	1名

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

①地域に選ばれる小児科を目指し、慢性疾患、長期に療養を必要とする患者様のフォローに力を入れてきました。今年度は胃腸炎などの流行があり、小児の入院が前年度より増加しました。また、今年度も継続して、内科の検査入院（EMR）、成人の耳鼻科の手術患者様や点滴加療の患者様、術前の血糖コントロール入院、眼科手術ペインコントロール目的の患者様の受け入れをしてきました。

②今年度も HPH・SDH の視点で地域医療活動を行い、チーム医療の質の向上にも努めました。小児虐待対策チームの活動を継続し、地域連携を大切にし、地域との情報共有を中心に行ってきました。

子育て支援では、『巣ごもりカフェ』や患者教育に関する『命の授業』『喘息教室』の案内をしました。子育て支援チームのスタッフ中心となり、子育て中に役立つ情報さらに、小児科ではひらがなの読み書きが苦手なお子さんへの『学習支援』の情報発信を行い、毎月継続した支援が行えています。

(2) 実績

①新規入院患者数	526人
②入院延べ人数	1,448人
③平均在院日数	373日
④平均占床率	42.15%
⑤成人患者	209人
⑥手術件数	67件

4. 教育、研修、研究活動

(1) 学術・研究等の発表（P194参照）

演題名	主催
病院で子どもと保護者が過ごす時間を考える ～「力を合わせて」を合い言葉に～	全日本民医連小児医療研究集会

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1)2024年5月の引っ越しで東4へ移動になり、併設運用となる内科病棟との業務協力、小児科対応出来るスタッフの育成に取り組んでいきます。
- (2)産科と協力して産後ケア事業を充実させ、親子のフォローができるよう努めていきます。
- (3)紹介患者様や救急依頼、他科入院の受け入れを積極的に行い、病床利用率増加に努めていきます。多職種と連携し、質の高い医療を提供していきます。

C4病棟看護科

看護長 大西美希

1. 任務、役割

- (1) 病棟数は50床です。
- (2) 消化器悪性疾患（消化器がん・呼吸器がん・乳がん等）や良性疾患（胆石・虫垂炎・腸閉塞・単径ヘルニア等）の手術療法を受ける患者様の看護に取り組んでいます。
- (3) 化学療法室と連携して術前・術後の化学療法を受ける患者様を受け入れています。
- (4) 整形外科疾患（上肢下肢の骨折・大腿骨頸部骨折・脊椎疾患）の手術療法を受ける患者様の看護に取り組んでいます。

2. 体制 30名

職種

看護師	30名
看護助手	2名

3. 活動内容と実績

(1) 実績

入院患者数	1,204人	(110.5人/月)
入院延べ人数	13,273人	
平均在院日数	11.3日	
病床利用率(占床率)	77.05%	
手術件数	920件	(緊急237件)
※外科系腹腔鏡下手術の件数：284件		

(2) 活動内容

- ①医師やメディカルスタッフと協力して入院患者の医療・看護に取り組みました。
- ②がん医療においては、がん関連診療チーム、スタッフを中心に、外科のキャンサーボードを定期開催し、多職種での情報交換・共有により切れ目なく取り組みました。
- ③整形外科疾患の患者をより多く受け入れ、リハビリテーションスタッフをはじめとした多職種チームで介入し、周手術期・退院指導を含めた取り組みがされました。さらに、積極的な緊急手術の受け入れを行いました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 各種参加

がんリハビリテーション研修会参加

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 高難易度の手術に対応できる周術期看護のスキルアップを目指します。
- (2) 多職種と協働し、術前から退院に向けた患者教育の充実を目指します。
- (3) クリニカルパスの評価・修正を進め、適切な治療・看護を提供します。

C5病棟看護科

看護長 砂川千恵子

1. 任務、役割

C5病棟は消化器内科疾患と呼吸器内科の患者様を中心に医療の提供を行なっています。食道から大腸、膵胆肝系の侵襲の高い検査や膵石治療にも取り組んでいます。悪性疾患などの患者様も多く、化学療法に移行する患者様、また緩和ケアへ繋ぐ役割も担い、認定看護師の協力を得ながら、疼痛緩和やQOLの向上、患者様・ご家族の方の精神的援助が出来るように日々努めています。また、呼吸器疾患の患者様には酸素の評価を行い在宅酸素、在宅呼吸器を導入し在宅への退院を支援しています。

また、独居高齢者や老老介護への介入も増えているため、入院時から多職種でカンファレンスを行い退院支援に取り組んでいます。

2. 体制37名

職種	
保健師	2名
助産師	1名
看護師	25名
病床数	50床

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

- ① 患者や看護師にとって安心・安全な医療を提供します。
- ② 消化器疾患、呼吸器疾患を中心とした治療・看護を統一して行い、スムーズかつ安全な医療と看護を提供します。
- ③ HPHに取り組み、ヘルスプロモーション活動の推進をおこないます。

(2) 実績

新入院患者月平均人数	114人
入院延べ患者数	1,372人
平均在院日数	11.1日
占床率	97.7%

4. 今後の展望

1. 各診療科における検査・治療をより多くの患者様に提供できるよう職員の知識と対応力の向上を目指します。

- す。
2. がんと診断されたときから患者様の意向に沿いながら治療や緩和ケアが受けられるように支援します。
 3. 地域へ退院される患者様に対し、情報を提供し、継続した支援ができるようにします。

東 2 病棟看護科

看護長 熊木直美

1. 任務、役割

東棟に病棟が移転し病床数は52床になりました。主に人工関節センターとしての役割を担いながら、骨折などの急性期治療を必要とする患者様を受け入れています。患者様が安全・安心に手術を受けられ、手術後のリハビリ、そしてスムーズに退院が進められるよう、多職種と連携を図っています。特に機能的改善を重視した看護、日常生活動作の援助や疼痛コントロールを行う場面で役割を發揮しています。

2. 体制34名

職種

保健師	2人
看護師	32人
看護助手	3人

3. 活動と実績等

新入院患者数	平均76人
延べ入院患者数	16,787人
平均在院日数	18.4日
病床利用率	90.5%
手術件数	838件
死亡数	0件

- (1) 平均在院日数18.4日、月平均入院数76人となりました。多職種連携で退院を促進し、在院日数の短縮に努め、多くの新患も受け入れました。
- (2) 病棟会議ではさまざまなデータを分析し、早期退院や加算取得に向け、多職種と毎月検討してきました。
- (3) 病棟移転に伴い、配置を工夫し働きやすい環境の整備も行いました。
- (4) 季節ごとにイベントをおこない患者様の満足度にも貢献してきました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) さらなる周手術期看護のレベルアップを図ります。
- (2) 入院早期からスクリーニングを行い、多職種と連携し退院困難患者の把握と早期介入を行います。
- (3) リハビリ科と日常生活動作の獲得に向け協働し、さらなる在院日数の短縮を図ります。

- (4) 患者主体の学習会やイベントを再開し、満足度の高い療養生活の提供を行います。

東 3 病棟看護科

看護長 小峰将子

1. 任務、役割

病床数32床。8月に東3病棟に移転後は乳腺外科が加わり、術後や化学療法の患者様を中心に受け入れてきました。

小児科とは部門が分かれてきましたが、引き続き連携しながら、妊娠・出産・育児を支えています。また、地域との連携も密に行っているため、地域のサポートも安心して受けていただくことができています。

女性とその家族の一生を支えることのできる部門を目指して、今後も安心して地域で過ごすことができるよう切れ目ない支援を継続していきます。

2. 体制35名 (2024年3月末日現在)

職種		
助産師	28名	うち保健師有資格者7名
看護師	5名	
准看護師	1名	
看護サポート	1名	

資格	人数
日本助産評価機構認定 アドバンス助産師	5名
NCPR (一次Bまたは専門A)	26名
NCPR 専門コースインストラクター	1名
ALSO プロバイダー	3名
J-CIMELS	1名
IBCLC	1名
ICLS	6名
災害支援ナース	1名

3. 活動と実績等

(1) 実績

新規入院患者数	1,027人
転入患者	60人
入院延べ患者数	6,483人
1日あたり患者数	17.7人
平均在院日数	7.2日
平均占床率	60.7%
分娩件数	297件
帝王切開	68件
婦人科手術件数	264件
乳腺入院患者数	52件
乳腺手術件数	34件
他科受け入れ件数	220件

(2) 総括

- ①乳腺外科受け入れ開始に向け研修を組み、8月の移転直後より乳腺患者を安定して受けることができました。
- ②EMRを中心とした内科、整形外科の術前後、眼科、耳鼻科、ペインなどの他科受け入れを継続して行い、病床運営に貢献することができました。乳腺外来や化学療法室の業務を担えるスタッフも増え、ポリバレンタース機能に向けた育成が行えました。
- ③感染防止対策を徹底し、4月より経膈分娩の夫立ち会いも再開しました。
- ④感染防止対策を徹底し、助産学校2校、看護学校4校の実習受け入れを行い、医療従事者の人材育成に貢献することができました。
- ⑤対面での「いのちの授業」を再開することができました。更年期や月経前症候群の講義依頼もあり、ヘルスプロモーション活動を増やすことができました。
- ⑥産婦人科外来にて、市の子宮がん・乳がん検診への推進を継続し、検診受診者数増加に貢献することができました。
- ⑦産後ケア事業では、日帰りも開始し、草加市からの委託も受けることができました。川口市と合わせ、訪問型：1件、日帰り型：8件、宿泊型：27件を受けることができ、前年度より大幅に利用が増えました。来年度は、さいたま市からの委託も受ける予定です。
- ⑧外国人妊婦の対応について入院医事課・外来医事課・医療社会事業課と連携し、対応の仕組みづくりができました。川口市保健所・支援団体との共有も行えました。
- ⑨Instagramを開始、産婦人科のパンフレットも作成し、アピールができました。
- ⑩いのちのSAMBA9条の会では、赤ちゃんの足型とスタッフの手型で平和のタペストリーを作成し、4年ぶりに原水禁世界大会（長崎）にスタッフが参加することができました。購読誌にも取り上げてもらい、平和の大切さと命の尊さを全国に発信することができました。

「新型コロナウイルス感染症流行下における産婦人科での妊産婦支援」萩原なるみ

- いのちの授業
 - 大妻嵐山中学校
 - 夏休み公開講座
 - 差間支部子ども保健教室
 - 高校生一日体験
 - 中学生夢ワーク
- パルシステム更年期障害・月経前症候群講師
- 差間支部更年期学習会講師
- 能登半島地震支援派遣

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- 埼玉県看護協会 助産師職能委員会に参加
- 第16回全日本民医連学術運動交流集会
 - 「切れ目ない母子支援を継続するための病院助産師としての役割～産後ケア事業を開始して～」
 - 小峰将子

東 4 病棟 ・ HCU 看護科

看護長 渡邊千賀子

1. 任務、役割

東 4 病棟は HCU8床と、循環器疾患・糖尿病・腎臓病・脳梗塞や脳出血などの血管障害の患者様が入院されている一般病床50床を合わせた病棟です。多職種で患者様に関わる業務体制を整え、質の向上をめざしています。また、医師の初期研修の場として、医師・看護師がともに学び合う環境作りを目標に活動しています。

2. 体制40名 (2024年 3 月末日現在)

職種	人数	備考
保健師	6 名	
看護師	32名	非常勤含む
認定看護師	1 名	皮膚排泄ケア
認定看護師	1 名	集中ケア

3. 活動内容と実績

① HCU 病床は、救急からの重症患者様、院内の急変患者様、手術後ハイリスク患者様などの重症管理が必要な患者様の受け入れを行い、入退室基準に沿って運営しています。

②認定看護師 2 名を配置し、重症治療管理のほか、身体的ケア・精神的ケア・家族ケアの実施、早期リハビリ介入や退院支援など看護の実践が適切に行えるように活動しました。

③一般病床では、患者様やご家族の意向を伺いながら、病気や生活とどのように向き合うのか、最期はどこで迎えるかを考えていただけるように支援しています。慢性疾患を抱えた患者様には、生活状況を確認し、病気を理解したうえで日常生活を送ることができるように疾患別パンフレットを用いて指導を行いました。

実績 (月平均)

入院患者数	79.7件 / 月
平均在院日数 (一般)	11.7件 / 月
病床利用率 (一般)	88.3% / 月
ペースメーカー移植術	10件
心臓カテーテル検査	128件
内シャント造設術	32件
経皮的シャント拡張術・血栓除去術	75件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

演題名	主催
Rapid Response System (RRS) の導入の経過と課題	第16回全日本民医連学術・運動交流集会
安全な輸血療法を目指した看護師への教育活動	第157回日本輸血、細胞治療学会 関東甲信越支部例会

5. 今後の展望・次年度に向けて

2024年度は南 4 病棟に戻り、リニューアルされた HCU8床をフル活用し、より一層救急患者の受け入れを効果的に実施できるように、医師をはじめ多職種連携し、基準・手順の整備や看護師の育成を進めていきます。

東 5 病棟看護科

看護長 森 直美

1. 任務、役割

癌から生じる痛みをはじめとする体のつらい症状や、患者様と御家族が病気とともに生きることの心のつらさが和らぐよう、多職種チームで連携し、支援しています。残された時間をその人らしく過ごしたい場所で過ごせるように、症状が緩和されたら在宅調整の支援を行ったり、患者様とご家族の要望を叶えられるよう支援を行っています。

2. 体制 14名

職種

看護師 14名

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績

新入院患者数	202人
転入院患者数	70人
退院患者数	263人
死亡退院数	200人
在宅復帰率	24.9%
即日入院	49人
平均在院日数	25.2日
平均占床率	90.9%

(2) 特徴

地域から求められる役割として、患者様の状態に応じ緊急入院を積極的に受け入れると共に、社会的入院や長期療養の患者様の受け入れも行い、地域のニーズに応えられるよう努めています。地域連携を円滑にするために、地域連携カンファレンスを実施し、つながりを深めています。

(3) 特色

東棟に移動となり、各病室内にトイレ、洗面台が設置された全室個室、20床となりました。見晴らしのよい5階には、ベッド、車椅子で散歩できるテラスも設置されています。

病棟ではカンファレンスを重ねながら患者様にとって必要なケアを多職種とともに日々考えています。患者様の日常に寄り添い、その人らしさを引き出す支援に努めています。

患者様やご家族にとっての最善を常に考え続けケアに

あたっています。緩和ケアチームとの連携を図りながらより専門的な緩和ケアの提供を行っています。

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 多職種で連携し充実した緩和ケアの提供を図ります。
- (2) 病棟スタッフの在宅調整力・支援力UPを図ります。
- (3) 充実した緩和ケアの提供のため、病棟スタッフのスキルUPを図ります。

北 2 病棟看護科

看護長 吉田暁子

1. 任務、役割

2023年9月開設し、2024年3月に地域包括ケア病棟に変更になるまで内科一般病棟として、患者の受け入れを行いました。成人・医療的ケア児のメディカルショート入院、急性期病院から治療が終了した患者の退院支援目的の入院を受け、多職種と連携しながら退院支援を実践しました。

2. 体制 20名

職種

医師	4名
保健師	1名
看護師	11名
看護補助者	8名 常勤4 + 非常勤4
事務総合職	1名

※上記以外：社会福祉士1名、薬剤師1名、管理栄養士1名、理学療法士3名、作業療法士2名、言語聴覚士1名

3. 概要、特徴、特色

- ・2023年9月から2024年2月までは内科一般病床として、3月から開始となる地域包括ケア病棟の準備期間として病棟を運用しました
- ・毎日判定会議を多職種で行い、患者を受け入れました
- ・医療ケア児のメディカルショート入院を開始し、臨床工学技士との連携で、安心して入院ができる環境を整えました

(1) 実績 (2023年9月～2024年2月)

入院患者数	353人
退院転出数	316人
平均在院日数	19.8日
病床稼働率	75.7%

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

特記なし

5. 今後の展望・次年度に向けて

- ・地域包括ケア病棟として、急性期医療と在宅をつなぐ役割を発揮

- ①急性期病床からの患者を受け入れます
- ②在宅や施設からの患者を受け入れます
- ③メディカルショート入院の患者を受け入れます

・ACPの実践

患者の意思を尊重し、多職種でサポートしていきます

・退院支援の充実

退院調整を円滑に進めるために、地域の専門職と連携し、退院後の生化学環境を整えていきます

透析看護科

看護長 小野栄子

1. 任務、役割

透析室では外来患者及び入院患者の血液透析を行なっています。透析導入を始め他施設での透析患者を含めシャントPTA、手術・検査やリハビリ目的など予約入院の他、ERや他施設からの紹介で緊急入院、緊急透析が必要とされる方を断らず受け入れをしています。

透析看護科では、院内外の連携を図りながら、安全な血液透析の提供と療養支援、シャントPTA介助、透析時運動療法、フットケア、看護面談等を通して急性期対応及び維持透析患者のQOL向上をサポートしています。また、ふれあい生協病院外来と連携し糖尿病患者への透析予防や腎症患者への透析導入前療養支援、透析看護外来を実施しています。

2. 体制21名（2024年3月末日現在）

職種	人数
看護師	12名
准看護師	2名
事務総合職	1名

3. 活動と実績等

(1) 特徴

- ①維持透析患者へDMリンクナースによる看護面談開始しました。インスリン手技が自己流である方も複数あり、個々の生活背景に合わせた療養指導を通じ、データ改善や行動変容が見られつつあります。
- ②多職種カンファレンスの準備・進行を担い、運動療法の実施拡大や運動療法中断者へのアプローチ、個別療養指導を実践しました。
- ③毎月全患者へフットチェックを実施し、足病変早期介入に努め下肢切断患者の発生がありませんでした。
- ④ふれあい生協病院外来連携を図りながら、はじめ外来の再開が測られました。腎症Ⅳ期に対する介入は年度内再開が見送られたため、透析看護外来として導入前指導を行いました。
- ⑤院内リニューアルに伴い、隣接する部門がなく透析室へアクセスも限られたためRRTリンクナースを任命し急変時対応訓練と防災訓練を計画的に実施しました。
- ⑥防災と運動療法をテーマとした透析患者懇談会を全

7回開催し、患者・家族23名職員のべ32名参加しました。

- ⑦ポリバレンタナースとして週1乳腺外来支援をしています。

(2) 実績

年間透析件数	10,184件
新規透析導入数	28人
外来透析管理患者数延べ	686人
入院透析管理患者数延べ	341人
シャント拡張術	110件
内シャント造設術	32件

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
①	盛 雅巳	透析運動療法導入の実際	全国腎臓病患者懇話会 11/17-18)	(京都)
②	長竹 恵 美子	防災訓練の実際	埼玉協同病院(2024.1)	ふれあい会館(埼玉)
④	続木 佳 栄子	認知症をもつ維持透析患者と対応困難な家族への関わりについて	埼玉民医連看護部 (2024.3.3)	ふれあい会館(埼玉)
④	小倉 信 世	維持透析患者へのセルフケア向上につながる援助について	埼玉民医連看護部 (2024.3.3)	ふれあい会館(埼玉)

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民医連学連交、④埼玉民医連看護学会

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) ふれあい生協病院外来と連携し透析予防への介入と腎症Ⅳ期の再開をめざし、地域と連携しながら透析導入病院としての役割を発揮します。
- (2) 次年度、新たに血液浄化センターとしてリ安全・円滑にリニューアルが迎えられるように多職種、他部門と協力しながら計画的に準備を進めます。
- (3) 維持透析患者の安定した透析療法を支えQOL向上やACPに寄り添った個別看護の実践をすすめます。
- (4) QIチームを立ち上げ、多職種連携で質の高い透析治療とケアやアプローチの拡充を目指します。

手術看護科

看護長 齊藤今日子

1. 任務、役割

手術室では周術期における患者の安全を守り、手術が円滑に遂行できるよう、正しい知識を身に付け、常に最新の技術を提供しています。

2. 体制31名 (2024年3月末日現在)

職種	
周術期管理チーム認定看護師	1名
保健師	1名
看護師	29名
准看護師	1名
看護助手	5名
事務総合職	1名

3. 活動と実績等

今年度は COVID-19が5類になりましたが、引き続き手術患者様やご家族が少しでも安心して手術に望めるよう寄り添った看護を行ってまいりました。手術後は一人でも多くのベッドサイドに訪問できるよう心がけ、訪問率95%以上を維持できています。8月より手術支援システムが導入され、作業効率改善ができ、周術期看護に費やす時間を増やすことで、看護の質の向上を図ることができました。

また、ペイン外来は今年度からは週1.5日の外来体制に拡大し、処置室も改修工事にて使用しやすい環境となったため、より多くの神経ブロックを必要とする患者様の受け入れができるようになりました。2022年度の利用者数1,489人から2023年度の利用者数は1,841人と、大きく増加しています。

(1) 手術実績 (前年比)

各科手術件数	2,607件 (95.9%) 外科622件、整形外科1,469件、 産婦人科283件、腎臓内科36件、 耳鼻咽喉科82件、眼科114件
全身麻酔手術	1,941件 (96.6%)
術前訪問件数	1,851件 / 外来手術は対象外
術中訪問件数	185件 / 3時間以上の外科手術対象
術後訪問件数	2,060件

(2) ペイン外来実績

年度	2018	2019	2020	2021	2022
外来件数	951	958	1,005	1,395	1,489
年度	2023				
外来件数	1,841				

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名

〈埼玉民医連看護学会〉

「側臥位による皮膚トラブル発生状況から検討した看護の有用性」

〈学術運動交流集会〉

今年度は開催なし

〈医療活動交流集会〉

「術後疼痛管理チームによる術後の疼痛緩和と副作用軽減に向けた取り組み」

5. 今後の展望・次年度に向けて

(1) スタッフ育成 (2) 周術期看護の連携強化

(3) ペイン外来の拡充 (4) 眼科白内障手術の再開

(5) ふれあい生協病院外来手術室の活用

看護育成課

看護長 高橋里美

1. 任務、役割

看護育成課の役割は、人材の確保と育成、キャリアアップ支援と考えています。私たちのビジョンは、民医連の看護の継承と、一人ひとりの看護観の実現を支援することです。

2. 体制 3名

職種	
助産師	1名
看護師	2名

3. 活動内容と実績

(1) キャリア1（看護職員1～3年）育成

キャリアアップ委員会のもと、看護教育センターとしての機能を有し、教育要綱に沿って 北部・西部・中南部サポートセンターと連携しながら看護職員を育成しています。教育担当者・指導者の育成支援も行なっています。

① 1年目看護職員研修

看護支援システム（ナーシングシステム）を活用しながら、集合研修での技術演習や集中講座、OJTを組み合わせた研修をすすめました。

② 2年目・3年目看護職員研修

2年目はいのちの章典や健康について、3年目は健康の社会的決定要因を学び、事例やフィールドワークを通して互いの経験を共有することで成長の機会となりました。

(2) 経験者入職時の支援

入職時オリエンテーションと、入職後の定着と不安軽減を目的とした1ヶ月後面接を行なっています。

(3) 看護学生・高校生への関わり

① 看護学生実習受け入れ状況（2023年5月～2024年3月）

コロナウイルス感染症拡大で実習病棟変更もありましたが9校・実人数253名を受入れました。

学校（県内・県外）	学校数	実人数
大学	5	133名
専門学校	2	114名
助産実習	2	6名

② 中高校生企画（看護学生委員会と共催）

高等学校への出前授業2回、県民の日に多職種合同で医療職体験を開催し、将来の職業選択を考える事につながりました。高校生向け看護体験4回、受験のための模擬面接を2回開催14名対象に実施しました。

中学生3校24名の職業体験受入れを行なった。

③ 看護学生向けインターンシップ11回+低学年看護体験1回、個別対応で32回受け入れました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

演題名	主催者
多職種で取り組んだ高校生への医師・看護職・医療技術職見学体験の実践報告	第6回 医療活動交流集会

看護サポート科

主任 高田千春

1. 任務、役割

看護補助業務として安全で快適な療養環境整備を看護師指導のもと、業務を遂行します。また看護師と看護補助者が協働する中でより質の高いケアを提供できるように日々職員の力量向上や能力開発に努めています。

2. 体制42名 (2024年3月末日現在)

職種	人数	備考
看護助手	7	常勤
看護助手	35	非常勤

3. 活動と実績等 (教育計画)

- ・医療安全学習 (車椅子移乗移動介・食事介助・口腔ケア)
- ・感染対策学習 (手指衛生と PPE の着脱)
- ・SDH について学ぶ
- ・透析糖尿病についての学習
- ・感染症の基礎知識 (インフルエンザ・新型コロナウイルス)
- ・LGBTQ について人権学習
- ・脱炭素社会について環境学習

薬剤科

部責主任 吉田卓司

1. 任務、役割

- ・昨年に引き続き、術後疼痛管理チーム、外来救急薬剤師業務、術前外来、手術室での麻薬、医薬品の使用、払い出し、在庫管理の業務に関わってきました。その他に、さらなるカルテの記録の改善、危険薬や注意を要する薬剤の安全管理の向上の取り組みを進めてきました。
- ・引き続きがんセンターボードに分担して参加し、レジメンの検討、作成、個々の投与設計などに積極的に関わり、がん患者指導管理料への算定に必要な業務を進め、的確で安全ながん診療に参画してきました。
- ・ICT、がん化学療法、NST、緩和、各診療科チームなどにも積極的に関与、病棟会議、病棟朝会への参加を進め、チームによる医療の質向上に努めてきました。

2. 体制35名

職種	人数
薬剤師	30名 (うち、非常勤2名)
薬剤助手	3名
事務スタッフ	2名

■資格取得

認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定薬剤師、外来がん治療認定薬剤師、※栄養サポートチーム専門療法士、抗菌化学療法認定薬剤師、糖尿病療養指導士、スポーツファーマシスト、診療情報管理士、埼玉県肝炎コーディネーター

3. 概要、特徴、特色

- ①採用医薬品数1,473
 - 新規採用医薬品数 98品目
 - 医薬品廃棄率 0.171%
- ②外来院内処方箋枚数 15,007件
 - 院外発行率 平均96.9%
 - 入院処方箋枚数 67,144枚
 - 注射処方総数 (Rp) 248,724件
 - 注射セット件数 (Rp) 248,724件
 - 注射セット率 (Rp) 81.06%
- ③薬剤管理指導業務 他
 - 1) 入院服薬指導実人数 7,800人

- 2) 退院時薬剤管理指導数 4,378人
- 3) 病棟薬剤業務実施加算 149,797件
- 4) 薬剤総合評価調整加算 100点314件、150点151件
- 5) 退院時薬剤情報連携加算335件
- 6) 周術期薬剤管理加算1,179件
- ④無菌調剤件数
 - 1) TPN 無菌調製件数 396件
 - 2) 外来化学療法件数 1,084件
 - 3) 入院化学療法件数 109件
 - 4) 無菌製剤処理(細胞毒性)件数 1,018件
 - 5) 携帯型ディスプレイ混注件数 10件
- ⑤がん患者指導管理料ハ 87件
 がん化学療法レジメン管理数233件
 (新規作成6件 改定12件 削除1件)
 がん連携充実加算363件
- ⑥TDM 88件
- ⑦DI業務
 - 1) 質疑応答 59件
 - 2) DI ニュース 12回発行 (No.645~656)
 - 3) 一般使用成績調査 3例 副作用詳細調査 3例
- ⑧安全管理業務
 - 1) 副作用報告 全日本民医連 37件、厚労省(PMDA) 37件
 - 2) 医薬品副作用被害救済制度 申請0件
 - 3) プレアボイド報告 503件
 - 4) 中毒対応件数 7件

4. 教育、研修、研究活動

- ・日本麻酔科学会「術後疼痛管理研修」
- ・日本病院会 医療安全管理者養成講習会 6/16
- ・クリニカルファースターシンポジウム 7/22-7/23
- ・日本臨床栄養学会 栄養サポート専門療法士臨床実地修練
- ・全日本民医連 東日本小児医療研究会10/29
- ・第16回全日本民医連学術・運動交流集会
 「トレーニングレポートを活用した薬-薬連携」
- ・埼玉県病院薬剤師会 新任薬剤師研修会2024.1/20
- ・第5回高齢者薬物療法に従事する薬剤師のための研修会2024.2/25
- ・学会等の参加
 - ・第16回日本緩和医療薬学会 5/26-5/28
 - ・日本医薬品安全性学会学術大会 7/16-7/17

検査科

科長 松本 茂

1. 任務、役割

- (1) 迅速に正しい検査データを提供して早期治療へ繋がるように努めます。
- (2) 適正な検査が行えるよう院内への情報提供をするとともに安全な検査が実施されるよう働きかけます。

2. 体制 34名 (2024年3月末日現在)

臨床検査技師	人数
埼玉協同病院	常勤22名 非常勤3名
ふれあい生協病院	常勤名7名 非常勤2名

〈技師取得認定〉

認定・資格	人数
細胞検査士	4名
認定血液検査技師	2名
超音波検査士 (消化器)	4名
超音波検査士 (体表臓器)	3名
超音波検査士 (循環器)	1名
2級臨床検査士 (血液)	1名
2級臨床検査士 (病理)	2名
緊急臨床検査士	6名
ICLS (二次心肺蘇生法) インストラクター	1名

3. 活動と実績等

- (1) 2023年4月から時間外の血液培養検体の陽性時の処理・対応を行いました。
- (2) 実績

項目	件数
全血液培養陽性検体	314件
時間外血液培養陽性検体	63件 (20.1%)

時間外に報告した63件の内、抗菌薬の開始、変更、追加対応となった症例は16/63件 (25.4%) でした。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

第66回日本糖尿病学会年次集会

『新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミック前後での検査目的のCGM 施行例の比較』

廣瀬 里菜

5. 今後の展望、次年度に向けて

- (1) 埼玉協同病院およびふれあい生協病院の職員が協力して地域住民に質の高い医療を提供していきます。
- (2) 全世代が研修会や学会に積極的に参加し、各検査分野の認定資格取得などをすすめ専門性の高い職員育成に取り組めます。
- (3) 救急業務に参画し、チーム医療の一員として救急医療に積極的に関わっていきます。

放射線画像診断科

科長 北原弘治

1. 任務、役割

一般撮影装置、マンモグラフィ撮影装置、X線TV装置、CT装置、MRI装置、血管造影装置、超音波装置、骨密度測定装置を有し、外来、入院、健診の検査に携わっています。

2. 体制 31名

診療放射線技師	人数
埼玉協同病院	常勤24名
ふれあい生協病院	常勤名6名 非常勤1名

3. 概要、特徴、特色

(1) 特徴

埼玉協同病院は救急・整形・病棟から依頼される検査を中心に業務を行っています。一般、CTだけでなくMRI、X線TV、血管造影など複数のモダリティを有し、検査から治療分野に至るまで幅広い業務を担っています。

ふれあい生協病院は外来・健診を中心に業務を行っています。画像を提供するだけでなく、画像診断の補助に積極的に関わることを目指し、CT、超音波検査、上下消化管検査では技師コメントを読影レポートに記載しています。また、画像診断の結果が確実に診療に活かされるよう読影レポートの内容と受診状況を確認し、必要に応じて主治医に報告するフォロー体制を確立し、毎日の業務としています。

(2) 技師取得認定

認定・資格	人数
放射線管理士	8名
放射線機器管理士	6名
検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	4名
超音波検査士（消化器）	2名
超音波検査士（体表臓器）	1名
乳腺超音波検査認定技師	2名
胃がん検診専門技師	1名
胃がんX線検診技術部門B資格	2名
胃がんX線検診読影部門B資格	2名

(3) 施設取得認定

医療被ばく低減施設認定

マンモグラフィ検診施設画像認定

(4) 実績 2023年1月～2023年12月

検査名	検査数（協同）	検査数（ふれあい）
一般撮影	40,685	3,170
ポータブル撮影	10,908	173
乳房X線撮影	1,196	—
骨塩定量測定	1,611	—
CT	15,706	1,786
MRI	6,963	—
X線TV	1,172	—
血管造影	429	—
超音波	4,326	627

4. 教育、研修、研究活動

特になし

5. 今後の展望・次年度に向けて

- 埼玉協同病院、ふれあい生協病院一体での研修計画を策定し、専門性を高める職員研修に取り組んでいきます。
- 放射線画像診断科症例発表会をはじめ医師による勉強会、ミニ学習会を開催し読影知識向上に取り組んでいきます。
- 各検査の読影フォローを継続的に行い検査結果が確実に診療に活かされるよう取り組んでいきます。
- 医療被ばく低減認定施設として、医療被ばくの適正化、病院職員への教育、医療被ばく相談に取り組んでいきます。
- 告示研修の受講を進めるとともに、部門内に静脈穿刺検討チームを発足し、業務拡大に向けた準備を行います。
- 救急担当技師という新たな業務を確立し、検査のマネジメントを担いチーム医療の一員として救急医療に積極的に関わっていきます。

リハビリテーション技術科

科長 吉田知行

理学療法士 39名 作業療法士 22名
言語聴覚士 7名 歯科衛生士 2名 事務 1名
ふれあい生協病院 6名
理学療法士 3名 作業療法士 2名
言語聴覚士 1名

1. 任務、役割

(1) 病棟及び外来・在宅におけるリハビリテーションの機能と役割

医師の指示のもと理学療法・作業療法・言語療法・摂食機能療法・口腔ケアを実施し、患者様、ご家族様を中心に、医師、コ・メディカル、ケアマネージャーなどと協力し、社会復帰を目指します。

①回復期病棟

急性期治療が終了した回復期の患者様に対しリハビリテーションを実施します。質の高い生活が行えるよう、その方にあったリハビリテーションを提供します。

②整形外科病棟

入院直後より退院後の生活を想定し、退院後も獲得した能力が維持できるようリハビリテーションを提供します。

③内科病棟

急性期の治療中及び治療後の患者様に対しリハビリテーションを実施します。廃用症候群などの二次的合併症の予防を行います。

④外科病棟

手術前後の患者様に対しリハビリテーションを実施します。術前呼吸リハビリテーションや術後の廃用症候群などの二次的合併症の予防などを行います。

⑤緩和ケア病棟

患者様・ご家族様の希望をかなえられるようリハビリテーションを提供します。

⑥地域包括ケア病棟

在宅退院を目指し機能訓練や日常生活動作訓練を行います。また多職種と連携し環境調整やサービス調整を行います。

⑦外来

在宅生活を送る上での疑問や工夫などを常に確認しながらリハビリテーションを提供します。

⑧訪問

自宅退院直後からご自宅でのリハビリテーションを行い安心してご自宅での生活が送れるように支援します。

2. 体制 (2023年3月末日現在)

埼玉協同病院 71名

3. 活動と実績等

①一般病棟

- ・入院3日以内介入率 81.0%
- ・入院7日以内介入率 96.4%

②回復期リハビリテーション病棟

- ・実績指数 45.6
- ・患者一人当たり1日提供単位数 5.5単位

③地域包括ケア病棟

- ・在宅復帰率 88%
- ・患者一人当たり1日提供単位数 2.17単位

④訪問リハビリテーション 訪問件数

- ・173件
- ・訪問リハビリ回転率 622%

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- ・臨床実習指導者講習会へ参加しています。
- ・川口市地域包括ケア学会
ふれあい生協病院の訪問リハビリの役割について
- ・全日本民医連学術運動交流集会 in 石川
新型コロナウイルス感染症に対するリハビリテーションの取り組み
- ・埼玉県高齢者大会
加齢性難聴についての講義

食養科

科長 廣澤教子

1. 任務、役割

食を通して「身も心も養う」という理念に基づき、入院患者様へ安心・安全な食事を提供しています。また患者様が退院後も安心して地域での生活が送れるよう、入院中の栄養管理を多職種で連携して行い、食生活相談も積極的に実施しています。退院時には、必要に応じてかかりつけ医へ情報提供書を作成し、在宅まで切れ目ない食支援が行えるよう努めています。

外来では、個別食生活相談や集団指導により疾病の悪化防止に取り組み、減塩班会や料理教室等の地域活動を通して疾病予防活動にも力を入れています。

2. 体制 51名

職種

管理栄養士 20名 (うち非常勤職員 4名)

調理師 10名

非常勤調理員 20名

非常勤事務 1名

※2. 23. 8～管理栄養士 5名 (非常勤 4名含) ふれあい生協病院所属

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績 (年間件数)

外来食事相談件数	1,988件 (うちふれあい903件)
入院食事相談件数	2,019件 (うちふれあい160件)
集団食事相談件数	12件
在宅食事相談件数	0件
特定保健指導件数	127件
入院患者食数	263,987食 (月平均21,999食)
選択メニュー数	14,601食 (月平均2,920食)
特別食加算の割合	月平均 38.5%
1食あたり食単価	月平均 486円

※2023. 8～ふれあい生協病院を含む

(2) 活動内容

① NST 回診 週 1 回

② 褥瘡回診 週 1 回

③ 緩和回診 週 1 回

※④アレルギー外来 週 2 回

※⑤乳児健診 週 1 回

※⑥糖尿病集団指導外来 (はじめ外来) 週 1 回

⑦うぶ声学校 月 1 回

⑧各種教室 (肝臓病・呼吸器・介護者等)

※2023. 8～ふれあい生協病院

(3) 給食システム

安心、安全な食事を提供するために、ニュークックチルシステムを導入し、IH 再加熱配膳カートを使用して食事を提供しています。2023. 7からは仮厨房への移動に伴い配膳車カートを熱風式へ変更し、一部を除き、給食会社からの完全調理品を使用しています。

給食業者 (株)給食協同サービス リップル

4. レストラン虹の森

病院改修工事に伴い、2023. 6から休業となっています。

(1) 体制 11名 (2023. 5まで)

職種

調理師 1名 (左記調理師が兼務)

非常勤職員 10名

(2) 運営会議 (2024. 5まで開催)

①体制 6名 (うち組員 2名)

②年間開催数 12回 (毎週第 3 火曜日)

5. 今後の展望・次年度に向けて

(1) 厨房改修中の仮厨房においても、満足度を落とさないために嗜好調査やミールラウンドなどを強化することで、患者様のニーズをつかんで対応します。

(2) 新厨房の稼働に向けて、人員体制や献立の整備を行います。

(3) 2 病院間で管理栄養士の連携をはかり、双方で入院・外来食生活相談および保健指導件数を増やすことで、経営に貢献します。

(4) 多職種介入による栄養アセスメントから早期介入を行うことで絶食期間を減らし、低栄養状態のリスクの改善と、退院支援までかかわっていきます。

(5) 新入職員、経験年数の少ない職員だけでなく、中堅職員についても教育訓練を進め、民医連の職員として力を発揮できるようにします。

ME 科

科長 岡本雪子

1. 任務、役割

- (1) 安心して使用できる医療機器の管理をします
医療機器の専門職として点検・修理等、ME 機器管理を通して安全性、信頼性の高い医療機器の提供をします。
- (2) 専門職としてのスキル向上に努め、チーム医療の一員として力を発揮します。
- (3) 医療機器に関する事故ゼロを目指します
予防保全やスタッフへの教育により医療機器に関連の事故を未然に防ぎ、機器関連の事故ゼロを目指します。
- (4) 外来維持透析だけでなく CRRT、アフレスシス療法などを行ない、24時間体制で患者の命を守ります。
- (5) 在宅療養をされる患者様へ支援します
在宅療養される患者様やご家族へ装置の使用方の説明を行い安心して療養生活が送れるよう支援します。

2. 体制 14名 (2024年 3月末日現在)

職種	人数
臨床工学技士	14名
< 専門資格 >	
認定血液浄化臨床工学技士	1名
透析技術認定士	4名
透析技能 2 級	1名
3 学会合同呼吸療法認定士	4名
第 2 種 ME 技術者	10名
医療機器情報コミュニケーター (MDIC)	1名

3. 活動と実績等

2023年度 ME 科月報

	2023年度												年度合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ME による修理件数	2	7	8	0	4	0	1	4	9	2	0	2	39
メーカーによる修理件数	8	10	7	11	7	6	4	9	9	8	2	4	85
職員の不注意による機器破損件数	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	4
装置の不具合による事故件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
人工呼吸器 (NPPV 含む) 貸出件数	32	17	19	24	34	19	43	37	28	47	72	47	419
HOT 指導件数	11	6	10	4	2	6	3	6	1	3	1	7	60
CPAP 指導件数	6	4	3	1	2	0	1	3	0	0	0	0	20
在宅人工呼吸器指導件数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
その他 ME 機器指導件数	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
ペースメーカ新規導入件数	0	2	0	2	1	0	0	0	2	0	1	0	8
ペースメーカ交換件数	0	0	4	1	0	1	4	3	2	1	0	0	16
ペースメーカ外来件数					20	22	18	41	26	27	20	19	193
自己血回収装置操作件数	1	0	1	1	1	1	0	1	0	0	1	0	7
神経モニタリング操作件数	4	4	6	4	4	6	6	5	2	6	6	4	57
シャントエコー件数	12	4	10	10	3	3	4	9	6	8	22	15	106
フットチェック件数	—	—	6	6	6	6	13	13	14	15	11	14	104
SCS 外来件数	3	2	3	2	1	4	2	3	4	1	2	3	30
麻酔補助件数	4	3	6	8	6	10	8	5	10	8	6	10	84
ESD/EMR 直接介助件数	39	47	39	35	31	27	36	30	32	33	36	33	418

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
①	菅 隆太 (臨床工 学技士)	急性カフェイン 中毒に対する 血液透析を 経験して	第68回日本 透析医学会 学術集会 総会	神戸コンベン ションセン ター (大 阪府)
①	藤本政幸 (臨床工 学技士)	CE によるシャ ントエコー業 務介入の報告	第68回日本 透析医学会 学術集会 総会	神戸コンベン ションセン ター (大 阪府)
①	相澤真衣 (臨床工 学技士)	COVID19感染 HD 患者の抗 原定量値によ る個室透析隔 離解除の検討	第68回日本 透析医学会 学術集会 総会	神戸コンベン ションセン ター (大 阪府)
①	市川宗賢 (臨床工 学技士)	麻酔補助業務 をはじめて	第33回日本 臨床工学会	広島国際会 議場 (広島 県)
①	市川宗賢 (臨床工 学技士)	当院の脊髄刺 激療法患者に 対する臨床工 学技士の関り	日本ペイン クリニック 学会第4回 北関東・甲 信越支部学 術会	自治医科大 学地域医療 情報研修セ ンター (栃 木県)
②	中村匠吾 (臨床工 学技士)	透析患者の包 括的高度慢性 下肢虚血患者 におけるレオ カーナ使用経 験	埼玉協同病 院 (2024年 1月19日)	埼玉県
②	福田和斗 (臨床工 学技士)	位置情報によ る機器管理に ついて	埼玉協同病 院 (2024年 1月19日)	埼玉県
②	葛綿祥照 (臨床工 学技士)	フットチェック 介入について	埼玉協同病 院 (2024年 1月19日)	埼玉県

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民医連
学連交、④埼玉民医連看護学会、⑤埼玉民医連介活研
会場：ZOOM

5. 今後の展望、次年度に向けて

- ・麻酔補助業務やスコープオペレーター、内視鏡直接介
助などタスクシフト・タスクシェアを推進しより専門
性の高い臨床工学技士として業務を確立する。
- ・臨床工学技士の夜勤業務を見据え、日曜日勤を開始し
365日日勤帯は臨床工学技士が常駐している環境を作る。
- ・新たに透析室から血液浄化センターに名称を変更し、
血液透析だけでなく急性血液浄化・アフレスシスを含
めた包括的な血液浄化療法を行う。またシャントエコー
を含めたバスキュラーアクセスの管理を行う事で
センターとしての機能をもつ。

総合サポートセンター

事務次長 高波奈津代

1. 任務、役割

- ①患者・家族、地域の医療機関、施設・事業所、院内
スタッフからの紹介依頼や相談の総合的な窓口とな
り、「何でもまずはワンストップで受け止める」セ
ンターとして、患者の抱える問題を早期に把握し問
題解決を図る。
- ②入退院管理を計画的・統括的に実施することで、地
域・組合員にとっての限られた病床の有効活用に繋
げる。
- ③がん相談窓口として、がん治療や緩和ケアに関する
相談をはじめ、就労支援等で患者・家族をサポート
する。
- ④患者のヘルスリテラシーを高める為の情報提供をは
じめ、さまざまな意思決定支援の為の活動を行う。
- ⑤医療生協の急性期病院として、地域医療機関や組合
員との連携で地域包括ケアを実践する。

2. 体制 38名

職種

医師	1名 (兼務)
看護師	10名 (非常勤3名)
薬剤師	1名
社会福祉士	12名 (非常勤2名)
事務	14名 (非常勤9名)

3. 活動内容と実績

- ①2023年8月14日のふれあい生協病院の開院に併せ
て、これまでの看護師・MSW・事務の3部門から
なる総合サポートセンターをひとつの部門に再編成
しました。
- ②3月21日に第39回地域医療懇談会を開催しました
(会場27名、オンライン40名参加)。ふれあい生協病
院忍院長より「開院からの経過」、皮膚科伊藤部長
より「アトピー性皮膚炎の新薬治療」について、脳
神経外科石丸部長より「頭痛治療」について講演し
ました。
- ③外国人への診療対応力向上と国籍を問わず無差別平
等の医療を実践するために、学習会を開催しました。
6月在日クルド人と共に温井氏より「難民について
の理解を深めよう」、11月港町診療所 NPO 法人 MIC

かながわ理事沢田医師より「外国人医療と医療通訳について」、2月介護老人保健施設さんとも事務次長竹本氏より「外国人技能実習制度を学び相互理解を深めよう」講演いただきました。

- ④多職種退院支援チームの事務局として、1)メンバーを講師としたミニレクチャー 2)退院支援が困難だった事例の共有(事例検討) 3)検討された事例の経過報告(フィードバック)を行いました。
- ⑤医療と介護の連携を目的に、地域連携懇談会を開催しました。7月川口市長寿支援課地域ケア係下道氏より「かわぐち元気ナビについて」、東埼玉病院地域ケア拠点室長中野医師より「幸手モデルの推進について」講義していただきグループワークを行いました(46名参加)。11月14日川口市役所福祉総務課石川氏より「重層的支援体制整備事業について」講義いただき、グループワークで理解を深めました(76名参加)。

入院医事課

部責主任 吉岡洋輝

1. 任務、役割

病院の医療収入の半分以上を入院診療で占める中、入院で行われる医療行為を正確に、かつ漏れなくお金に変える事は病院の経営にも大きく関わってきます。

私たち入院医事課では、入院患者の会計業務、保険請求業務をはじめ、病棟運営のためのデータ作成・分析といった多岐にわたる業務を担い、医師・看護師が治療・看護に集中できる環境をつくり、患者様への質の高い医療の提供へつなげていきたいと考えています。

2. 体制12名 (2023年3月末日現在)

職種	人数
事務総合職	7名
事務スタッフ	1名
非常勤職員	4名

3. 活動と実績等

(1) 入院医事課の病院での役割

- ①入院患者が行われる医療行為をしっかりと収入につなげること。
- ②医療の質や接遇の質を維持するために国家資格を持つ医師をはじめとした集団をマネジメントすること。
- ③データをもとに各病棟の課題を洗い出し改善に向けた提案を行うこと。

(2) 活動

- ①入院患者の早期退院の促進
- ②加算算定率向上に向けた取り組み
(救急医療管理加算、入退院支援加算等)
- ③正しい請求の取り組み
(査定、返戻率の減少、算定漏れ防止の取り組み)
- ④職員が働きやすい職場づくり
(超勤削減、有給休暇の取得推進)
- ⑤システムを活用した業務自動化の取り組み

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 頼られる事務の育成
- (2) 分析・発信力の強化(ツール・データの活用)
- (3) マネジメント力の強化(病棟運営・他職種連携)
- (4) 医療の質の分析・課題発見・提起

- (5) チーム医療への役割発揮（ファシリテーション能力）
 (6) 病棟移転後の稼働率維持

外来医事課

課長 田中紗代

1. 任務、役割

- (1) 急性期病院として機能発揮するため外来診療における課題抽出を行い、患者・病院職員にとって利用しやすい、働きやすい環境を整備します。
- (2) 多職種と連携し質の高いケアを提供できる診療科運営を行います。
- (3) 医師・看護師および関連部門と連携し、予算達成に向けた診療科マネジメントを行います。
- (4) 多職種と連携し正確な保険請求を行います。
- (5) 事務総合職としての職務への理解を深め、お互いに学び合い育ち合う組織作りを目指します。

2. 体制45名（2024年3月末日現在）

職種	人数
事務総合職	5名
事務スタッフ	5名
非常勤職員	22名
派遣職員	1名
当直事務	12名

3. 活動と実績等

外来医事課の病院での役割は、①病院で行われる医療行為をしっかりと収入につなげること、②医療の質や接遇の質を維持するために国家資格を持つ医師をはじめとした集団をマネジメント（会議運営・ファシリテーター）することなどがあります。

(1) 診療科受付

① ER

急患外来患者受け入れ、救急対応、転送時の対応、
医師補助業務

② 専門外来

乳腺外科、脳神経外科、精神神経科、循環器等、疾患の専門領域を扱う患者受け入れ、予約管理、検査説明および案内チーム会議の運営

③ 整形外科外来

診療科の受付業務、予約管理、検査説明および案内診療科会議の運営

④ 産婦人科外来

診療科の受付業務、予約管理、検査説明および案内

診療科会議の運営

⑤内視鏡

内視鏡の予約管理、チーム運営

(2) 会計入力

婦人科、中央会計における患者窓口負担の計算

(3) 総合受付

新患受付、紹介状受付、院内の案内、精算業務

(4) 検査受付

検査受付、患者案内

(5) 電話センター

埼玉協同病院、ふれあい生協病院の電話対応

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
①	門間 はるな	保険請求業 務をふりか えって	2024年1月 19日	埼玉県

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民
医連

医療事務課

課長 鶴我秀治

1. 任務、役割

- (1) 新規開設の在宅療養支援病院として機能発揮するため、医事業務全般における課題抽出を行い、患者・病院職員にとって利用しやすい、働きやすい環境を整備します。
- (2) 多職種と連携し質の高いケアを提供できる病院運営を行います。
- (3) 医師・看護師および関連部門と連携し、予算達成に向けたマネジメントを行います。
- (4) 多職種と連携し正確な保険請求を行います。
- (5) 事務総合職としての職務への理解を深め、各自の総合性を高めながら、お互いに学び合い育ち合う組織作りを目指します。

2. 体制39名 (2024年3月末日現在)

職種	人数
事務総合職	10
事務スタッフ	3
非常勤職員	26

3. 活動と実績等

ふれあい生協病院開設前の段階からワーキンググループを結成し、看護師等多職種と連携しながら、新病院、新規システムにおける病院運営を検討してきました。開院以降は導線上の課題やシステムトラブルに対して適宜集団的に対応し、改善に努めてきました。

取組の結果として、各診療科における待ち時間は、埼玉協同病院時代から何れも減少し、円滑な外来運営を構築出来ています。また、病棟運営については、届出事項等を整理し、計画にそって3月より地域包括ケア病棟入院料1の届出に繋げることができました。

(1) 診療科受付

①小児科

- ・診療科の受付業務、予約管理、検査説明および案内

②1階外来カウンター業務 (内科急患・専門外来・外科)

- ・急患外来患者受け入れ、救急対応、転送対応
- ・医師補助業務

- ・糖尿病、呼吸器、循環器等、内科疾患の専門領域を扱う
- ・患者受入れ、予約管理、検査説明および案内
- ・チーム会議の運営

③2階外来カウンター業務（皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科）

- ・診療科の受付業務、予約管理、検査説明および案内
- ・診療科会議の運営

④検査受付

- ・検査受付、案内

⑤北2病棟事務

- ・入退院患者事務対応
- ・クラーク業務

(2) 会計入力

各フロアにおける窓口会計入力業務

(3) 総合受付

新患受付、紹介状受付、院内の案内、精算業務

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
①	星野 妃 香里	小児科外来での土曜日WEB受付導入による、業務時間の軽減に関して	2024年3月 16日	埼玉県
①	井上 怜	ふれあい生協病院の内科外来における患者数と待機時間の調査	2024年3月 16日	埼玉県
①	高島 彩 花	新病院における総合受付業務の構築	2024年3月 16日	埼玉県

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民医連

医療情報管理室

部責主任 長峯光春

1. 任務、役割

- (1) 医療情報・記録の管理。
- (2) 医療の質向上につながる質指標測定・各種統計作成。
- (3) 診療支援および学術研究活動支援の3つの業務を主として担いながら、医療の質改善のためのPDCAサイクルが動くための支援機能を果たします。

2. 体制10名

職種

常勤職員 6名
非常勤職員 3名 (注1)

(注1) 1名は医師アシスト業務として外科系学会が運営するNCDおよび日本整形外科学会JOANRへの手術症例登録録を行っています。

■認定資格

診療情報管理士 5名
院内がん登録実務中級認定者 2名
院内がん登録実務初級認定者 1名

3. 概要、特徴、特色

(1) 過去記録の取り寄せは昨年よりも増加しました。引き続きB型肝炎「特別措置法」、障害年金申請等のための初診時からの記録が必要なケースが一定数発生しています。

医療記録の質管理に関しては、QIの測定値（カンファレンス、総合的な初期計画、健康リスクの評価、適切な診療情報提供）としてフィードバックしました。

(2) 医療コミュニケーション促進

引き続き新型コロナウイルス感染症流行のため、院内滞在時間を短縮したいニーズの影響もあり、新規登録はさらに減少しました。対面での「記録の読み方講座」ができないため、「マイかるて」利用者とのコミュニケーションエピソードを職員に募集しましたが、応募がありませんでした。職員への周知が課題です。

(3) QIをはじめ診療データを活用した改善支援

3回のマネジメントレビューへのインプット情報提供に加え、病棟会議に参加し医療の質目標に関わるデータの提供を行い、改善を支援しました。その他、医師、看護師、リハビリ等からの診療データ抽出依頼に日常的に応えました。

(4) 実績 (2022年1月～12月)

過去記録取り寄せ・貸出	79件 (前年比154.9%)
病歴登録管理	6,962件 (前年比91.9%)
退院時要約管理	7日以内完成 79.5% 14日以内完成 95.1%
死因登録	407件 (入院336、外来62、在宅9)
診療情報検索・調査	44件 (依頼24、学会等20)
院内がん登録	880件 (前年比104%)
NCD登録	外科691件、乳腺143件、病理3件
JOANR登録	1,343件
カルテ開示	97件 (申請52、法照会45)
「マイかるて」新規登録	75件 (前年比91.5%)

4. 今後の展望・次年度に向けて

クオリティマネジメント (QM) 部としてデータを活用した部門・チーム横断的な質改善活動を促進します。QI、BSCの評価指標の測定を確実にを行い、マネジメントレビューに適切にインプットし有効なPDCAを回します。また求められる診療実績データ、その他医療の質改善 (研究活動を含む) や専門資格取得等のためのデータ抽出・提供、改善活動支援や、医療活動の実績としての統計作成の精度向上と合理化を追求します。

チーム医療の質の証としての記録の改善を進めます。法的適切性・医療安全、効果的で標準的な医療、患者中心・人権尊重の観点からの警鐘症例に気づき、医療安全管理室と協力して安全施策につなげられるよう力量向上に努めます。

2023年8月に2病院化・電子カルテ更新・情報システム構成の大幅な変更に向けて業務の合理化を進めます。紙媒体帳票・記録の運用をできる限り削減し、退院までに医療記録の完成度を高める業務へと再構築し病院全体の記録および記録関連業務のスリム化と質改善を進めます。

患者と医療者のコミュニケーション促進のためのツールである「マイかるて」の普及を再開し、記録の質向上・患者と職員の満足度アップにつなげる取り組みを継続します。利用者のニーズに応えられる質情報の公開を模索します。

経営企画室

課長 条田真央

1. 任務、役割

〈職務〉

1. 経営

- ① 管理部の指示の下、必要な調査・分析を行います。
- ② 経営分析を行い、経営的な企画・政策立案を管理部に対して行います。
- ③ 経営委員会の事務局として、病院管理部への適切な情報提供や決められた方針を具体化します。
- ④ 診療報酬改定の情報提供などをタイムリーに行い、診療報酬改定の準備をすすめ職員への周知徹底、啓蒙活動を行います。
- ⑤ 全職員参加の経営をすすめるために、保険請求の勉強会を開催し、報酬につながる業務の仕方について協力を求めます。
- ⑥ 当院にあった経営分析、業務改善のツールやサービスの研究、紹介、導入のフォローを行います。
- ⑦ 部門、部門責任者に向けた経営報告、経営分析、改善事項の報告と共有します。
- ⑧ 経営企画部門からみた、医療の質の評価や向上への取り組み、活動します。

2. 広報

- ① 病院広報紙「ふれあい」を定期発行し、組合員・患者の知りたい情報、地域の連携医療機関・介護事業所などに提供すべき情報等を、タイムリーに発信します。
- ② ホームページの更新、外来モニター (デジタルサイネージ) の運営管理を行います。
- ③ 病院主催の市民公開講座等、各委員会やチームと協力して病院の広報・宣伝を行います。
- ④ 効果的な広報の活用を進め、研修医募集、看護師募集等の職員採用情報も広報活動します。

2. 体制 1名 (2024年3月末日現在)

職種	人数	備考
事務	1	

3. 概要、特徴、特色

(1) 実績

- ・ 経営委員会を主催し、定例会議を行いました。第一四半期、上半期経営検討会、予算検討会を開催しま

した。

- ・診療報酬改定の対応を主導し、当院で算定できるもの、努力すれば算定できるもの、算定できないものをチェック、院内に発信し、適切に算定できるように働きかけました。
- ・建設分野では、医療機器や什器の納品管理、移転委託業者と協力し院内移転の事務局を担当しました。

4. 学術・研究、講演、研究会等の記録

特になし

5. 今後の展望・次年度に向けて

- ・経営分野では、2024年度は新しくなった病棟編成をもとに、経営的な分析や提言を行い、医療資源を効率的に活用できる取り組みを進めます。
- ・広報分野では、ホームページや病院広報誌で埼玉協同病院、ふれあい生協病院を地域の方によりわかりやすく新しい情報を発信します。

医師アシスト課

課長 菅原千明

1. 任務、役割

1. 医師の事務作業軽減に寄与し、医師が診療に専念できる環境を作ります。
2. 医師の業務負担軽減に関する問題の調整を行い、医療の質向上に貢献します。

【職務】

- (1) 書類作成支援業務
- (2) 症例登録・実績管理業務
- (3) 外来診療補助業務
- (4) 病棟診療補助業務
- (5) 職員図書室の管理と文献サービス

2. 体制25名（2024年3月末日現在）

職種	人数	備考
事務	5名	常勤
事務	20名	非常勤

3. 活動と実績等

- (1) 書類作成支援業務
年間約13,000件の書類（各種診断書・証明書、労災保険、介護保険、生活保護法等に基づく書類）の下書きや医師サマリーの作成支援を行いました。
- (2) 症例登録・実績管理業務
各種調査・サーベイランスの実務支援、再生医療や人工関節手術の症列入力、JSA、NCD、JOANRの登録等、主に外科分野の症例データの登録を行いました。
データは医師の学会発表、研究、資格申請等に活用されています。
- (3) 外来診療補助業務
 - ① 外来診察時の補助（カルテ代行入力、診療の振分け、予約や検査案内、医師からの依頼事項対応等）
 - ② 外来診療予約準備業務（カルテチェック、データ準備）
 - ③ 電子カルテ等操作支援
- (4) 病棟診療補助業務
 - ① 入院時必要書類の準備と確認
 - ② クリニカルパス登録（年間3,000件）
 - ③ 退院時必要書類の準備
- (5) 職員図書室の管理と文献サービス
図書の貸出・返却管理、電子図書の利用方法案内、文

献検索と取り寄せ等により医師の学術活動の支援を行いました。

(6) 医師事務作業補助者としての医学的知識と事務処理能力を向上に力を入れています。

短期と長期の育成課題を明確にしたキャリアパス、キャリアラダーをもとに、医師事務作業補助者のスキルアップに取り組みました。毎月の学習会、夕会時の学習会で知識の共有化を図りました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
②	伊藤裕美 (事務)	2病院間に於ける 医師事務作業補助者の 役割	QMセンター 2024年3月1 6日	医療生協さ いたま協同 病院(埼玉 県)
②	加藤莉央	疾患別学習 会の効果に ついて	QMセンター 2024年3月1 6日	医療生協さ いたま協同 病院(埼玉 県)

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民
医連学連交、④埼玉民医連看護学会、⑤埼玉民医
連介活研

会場：ZOOM

医局事務課

部責主任 根岸千尋

1. 任務、役割

医局長を補佐し、医局運営課題を推進するため他職種と協力してよりよい医療が提供できるよう支援します。初期臨床研修医および後期研修医(専攻医)の対応、プログラムの管理と運営を行っています。

2. 体制 5名(2024年3月末日現在)

職種

事務総合職 3名
非常勤職員 2名

3. 活動と実績等

- (1) 医局目標に対して、医局運営委員会や月例医局会議で進捗確認を行い、達成に向けて取り組みました。
- (2) 初期研修医、専攻医、既卒医師、大学派遣などの非常勤医師に対し、医局のオリエンテーション、診療支援(電子カルテ操作説明)を行いました。
- (3) 初期研修委員会・専門研修委員会のメンバーを中心に研修全体の管理を行い、研修終了に向けた支援(研修システムへの登録・確認)を行いました。
- (4) 基幹病院、関連病院等の更新申請や年次報告の作成を行いました。
- (5) 後継者の確保・育成に対して、初期研修医7名、専攻医2名(連携含む)の入職が決まりました。
- (6) 医師の働き方改革への取り組みとして、宿直申請や業務の見直しを行いました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

医局を中心に病院全体で後継者の確保・育成に取り組みます。全職員が専門研修プログラムへの理解を深めてもらえるよう、医局事務の役割を発揮します。

システム管理課

課長 大野弘文

1. 任務、役割

- (1) 情報システムの適切な運用を行います。
- (2) 医療の安全性に寄与し、診断治療をバックアップできる情報システムを提供しています。
- (3) 医療経営情報の把握できるシステムを開発し、医療の質の向上に貢献します。
- (4) 資質の向上に努め、法令遵守をすすめます。

2. 体制 3名

職種

事務総合職 2名 うち1名医療情報技師
管理栄養士 1名

3. 概要、特徴、特色

- (1) 実績
 - ① 8月に電子カルテ更新を行い、2病院に対応した運用を実現。2月に1回目のバージョンアップを実施。
 - ② テンプレートや文書の作成。
 - ③ 電子カルテと連携する部門システムの導入支援。
 - ④ 患者通院支援アプリ WelCne の導入支援
- (2) 電子カルテ委員会
電子カルテ委員会と連携し、電子カルテ更新の事務局機能を担っている。

4. 学術・研究、講演、研究会等の記録

- (1) 外部研修
 - ① 電子カルテユーザーフォーラム
 - ② オンラインセミナー セキュリティ対策 など

5. 今後の展望・次年度に向けて

電子カルテ更新直後のシステム不具合など患者、職員にご迷惑をおかけしてしまったが、電子カルテメーカーと定期協議を行い安定稼働していきます。2病院の運用にまだ足りていないことや2024年度が診療報酬改定年度でもあるため、電子カルテの習熟をすすめ、要望への対応強化をしていきます。

患者から要望の強い「まいカルテ」は5月に再稼働を予定しており、広報紙などにも周知します。

また、建設計画に合わせたネットワークやシステム設計を適宜実施し、業務影響を最小限に抑えます。

資材課

課長 小池綾一

1. 任務、役割

病院で使用する、医療材料・伝票類（印刷物）・事務用品などの購買業務を行っています。また、診療報酬改定や高額機器購入時には価格交渉を実施し費用削減を行い、ベンチマーク活用による価格低減を実施しております。

2. 体制 2名

職種

事務総合職 2名

3. 活動と実績等

- (1) 診療報酬、償還価格引下げの影響率88%以上の回復することができました。
 - ① 償還交渉会議を6回、業者面談を3回だけと新型コロナウイルスの影響もあったが10月まで計画的に進めることができ法人全体で遡及を行えました。
 - ② 仁平先生 7月-8月 計3回（ストライカー1回、ジンマー1回、日本エムディエム1回）
遡及額（4月～2月）法人計＝－406,609円
 - ③ 償還品以外の主な値上げメーカーとの価格交渉。
償還品以外にも交渉することで経費削減に貢献できました。
4月-3月97社メーカー・業者と価格交渉。（メーカー希望値上げ額を阻止できた）31品目の削減効果を実施。
製品切替 13品目 －3,365,800円/年
価格低減 18品目 －4,033,900円/年
 - ④ Hip6Knee インプラント割戻プログラムにて10月割戻金。（日本ストライカー）－19,207,328円
- (2) 各部門のデットストック（6ヶ月以上の長期滞留品）を可視化し、費用軽減することができました。
 - ① 埼玉協同病院（長期滞留品削減 部門表彰）
1位 手術室・2位 C3病棟・3位 内視鏡室
長期滞留品金額：966,084円→584,189円 －381,895円
削減
定数：20,528,372円→19,405,769円 －1,122,603円
削減
 - ② ふれあい生協病院（長期滞留品削減 部門表彰）
1位 生理検査室・2位 リハビリ科・3位 健康管理

課

長期滞留品金額：217,688円→113,146円 - 104,542円削減

定数：2,529,918円→2,164,535円 - 365,383円削減
未納品率：0.12% 未納品率10%未満にできました。

(3) 消耗品・印刷物の価格見直しを行い費用削減することができました。

- ①消耗品：再生利用継続。文具などをシェアリング。
- ②消耗品：上位50品目交渉12品目 - 116,830円（年間）削減。
- ③印刷物：発注依頼品から再見積もりして価格交渉。
- ④消耗品：カタログの表示価格より全体で2-7%軽減。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 教育、研修、研究活動

- ①全日本民医連 医療材料購入担当者 ZOOM 会議に参加
- ②高崎健康福祉大学健康福祉学部教授の『2023年度診療報酬改定と病院経営』の講義に参加
- ③『いま着手すべきコスト削減策と便乗値上げの見極め方』LCO セミナーに参加

環境管理課

課長 小野秀敏

1. 任務、役割

- (1) 院内の施設設備管理、警備業務、清掃業務、バス運行管理業務を各委託業者と協力しながら行っています。
- (2) 主な資格：ボイラー技士1級・2級、エネルギー管理員、危険物取扱者（乙4類）、大気関係公害防止主任者・水質関係公害防止主任者・高圧ガス製造保安責任者（液化酸素）甲種防火管理者、甲種防災管理者、建築物環境衛生管理技術者（ビル管理士）、第2種電気工事士。

2. 体制 5名（2024年3月末日現在）

職種	人数	備考
臨床工学技士	1名	
事務総合職	1名	
ボイラー技士	1名	
ドライバー	2名	
委託業者	施設：明新メンテナンス株式会社 清掃：株式会社 ボイス 警備：豊国警備保障株式会社 バス：株式会社 エム・ビー	

3. 活動と実績等

エネルギー使用量		前年比
電気	6,395,382kwh	119.4%
ガス	471,001m ³	88.7%
水	59,934m ³	91.3%
CO ₂ 排出量	4,124t	109.1%

- (1) 老朽化した施設設備の更新計画の立案と実施します。
- (2) エネルギー供給会社の検討、クリーンエネルギーの検討による環境負荷軽減します。
- (3) 非常災害マニュアル、BCP マニュアルの改訂等、災害対策を強化し、災害に強い病院づくりをすすめます。

総務課

課長 我妻真巳子

1. 任務、役割

(1) 総務課は、人事業務・福利厚生・経理・庶務・業務委託など、職員が働くために必要な環境や制度についてサポートしています。

- ①人事業務 職員の募集、契約実務、入職時オリエンテーション、履歴書や免許証、職員名簿の管理など。給与関係では就労システムの様々な問い合わせ対応。
- ②庶務 院内の会議室や貸出用物品管理（パソコンやデジカメ、zoom アカウント）、郵便物や宅配物の受付と仕分け、慶弔業務、夜勤勤務者食の手配など。
- ③福利厚生 ユニフォーム、職員寮の管理、院内保育所利用案内、職員駐車場調整、さいたま共済会、有給休暇や特別休暇等の対応。
- ④経理 入出金管理、職員小口、出資金回収、集計。
- ⑤業務委託 売店、床屋、病室のテレビ、自動販売機、絵画展示物など

(2) 職員が気軽に相談でき、利用しやすい総務課を目指してきました。書類の作成、職員寮の入寮相談、健康保険の加入相談や手続き、育児休暇について、出資金、落とし物の問い合わせなど様々な要件で窓口を訪れます。

(3) 病室のテレビ、wifi、院内床屋さん、売店や自動販売機、患者用駐車場の窓口を行っています。

2. 体制 7名

職種	
事務総合職	2名（うち1名育児休業中）
事務スタッフ	2名
非常勤職員	3名

3. 概要、特徴、特色

(1) 総括

- ①新しい総務課が完成し、引越しと埼玉協同病院とふれあい生協病院 2病院の総務課として運用の見直し・整備を行いました。
 - ・新しい部門コードの設定
 - ・職員更衣室、ユニフォーム室の移設
 - ・病棟のピクトグラム導入による床頭台入れ替え
 - ・入退室管理システム導入による職員や業者用のセ

キュティカードの準備と使用開始

- ・2病院に対応する職員名簿管理システムの整備
- ②退職者アンケートの実施・集計・分析を行い、情報提供を行いました
- ③働くものための法令や規則を学び、職員へ正しい情報を伝達するよう努めてきました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

埼玉協同病院とふれあい生協病院 2病院の1総務課として円滑に機能し、職員、組合員、業者が安心して病院が利用できるよう対応、サポートします。

- ・業務を整備し、他部門と連携して職員が働きやすいと思える職場づくりを目指します。
- ・職員アンケートの実施、情報収集、調査内容の分析を継続して実施し、働きやすい環境づくりを行います。

健康まちづくり課

部責主任 工藤昇一

1. 任務、役割

健康まちづくり課は、住民の「健康で安心した暮らし」を実現していくために、地域へ医療生協の活動を知らせ、「参画」してもらい、職員・組合員や他団体の協力のもと、社会に働きかけ、「地域まるごと健康づくり」を目指しています。

2. 体制 3名

職種

事務総合職 3名

3. 担当地域 (川口市)

南部Aブロック (10支部)	木曾呂・東内野、神根東、道合・神戸、根岸、源左衛門、芝北、柳崎、芝南、芝西、伊刈・芝
南部Bブロック (7支部)	差間、戸塚中央、戸塚南、東川口、安行、安行慈林、新郷

4. 概要、特徴、特色

- (1) 健康づくりの場や、誰もが気軽に集まれる居場所を地域に広げ、人と人をつないでいく、まちづくりのコーディネートをしていきます。
- (2) 暮らしの中で発生する「困った」へのアプローチを行う為に、「(県南地域版) こまりごと対応安心ネットワークシステム」を推進します。
- (3) 新病院の建設とその目的を、組合員・職員とともに、多くの地域住民に知らせ、事業・活動への参加者を増やします。

5. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 医療生協でやりがいをもって活動する活動協力者を増やしながら、安心して住み続けられる地域づくりを進めます。
- (2) 建設事業と活動を通じて、地域に医療生協を広げます。
- (3) 院内の他職種や他事業所との「仕事の見える化」を互に行いながら、日常業務の中での連携を進めていきます。

つくし保育所

主任 丸岡京子

1. 任務、役割

医療生協さいたまに勤務する職員のお子様を保育しています。産休明けから2歳児までを中心に0歳、1歳、2歳以上の3つのクラスに分け保育を行っています。夜間、休日、臨時保育も行っています。よく遊び、よく食べ、よく眠るを3本柱に心身ともに健やかに元気に過ごせる子どもを目指しています。

2. 体制 17名

職種

保育士 13名 (うち常勤職員3名、事務スタッフ1名)

保育助手 3名

調理師 1名

3. 概要、特徴、特色

- (1) 小児科と連携して小児科乳児健診(3~4ヶ月)で赤ちゃん体操と個別相談を行っています。地域や職員を対象に思春期講座を3回開催しました。また産休中の職員を対象に育児教室を開催し、赤ちゃんマッサージ、離乳食の試食、進め方、生活リズム、個別相談を行いました。職員同士で和気あいあいと楽しい交流になりました。保護者を対象に子育てに関する情報のお便りを発行し保育所と保護者で情報交換を行ったり、紙面での交流ができました。
- (2) 保育の質の向上を目指して、職場全体で不適切な保育について学び、日頃の保育について振り返りを行いました。定期的に確認しあい、よりよい保育について話し合い保育に反映できるように努めました。配慮すべき点や支援する点などのチェック表を作成し定期的にチェックすることで、職場全体が意識して保育に当たることができました。また日常的にヒヤリハットと保育の振り返りを行いました。常に聞き取りをすることでヒヤリハット数が増え対策案を講じることができ、安全な保育につなげることができました。
- (4) 実績
 - ①在籍児数：27人
 - ②臨時保育児実数：41人
(年間延べ数 518人、月平均 43人)
 - ③夜間保育児実数：12人

(年間延べ数 153人、月平均 12人)

4. 今後の展望・次年度に向けて

- (1) 地域や職員のニーズに合った子育て支援に取り組みます。
- (2) 専門職としての資質向上、質の高い保育を目指します。
- (3) 安全対策、感染症対策を強化して子どもの安全を守ります